



# 漁業の復興

石巻市の基幹産業は漁業です。アジア有数の港・石巻港とその他43の漁港の殆どが津波の被害を受け、漁船の9割と漁業施設の8割を失いました。

住民の大部分が牡蠣・ホタテ・ワカメの養殖に携わる牡鹿半島では、その養殖が壊滅的なダメージを受けました。牡蠣は、種付けから収穫まで2年以上かかるため、産業基盤の回復にはかなりの時間が必要です。さらに、市街地に比べて復興のスピードが遅く、若い人たちは、仕事を求めて半島を後にし始めています。このままの状態が続くと、牡鹿半島における人口の減少やさらなる高齢化、産業の衰退が懸念されます。


まずは、住民の生活水準を震災前の状態へ回復させ、住民の流出を防ぐことが急務です。

養殖の復旧を進めつつ、養殖による生計が回復するまでの間、代わりの収入源を早急に準備する必要があります。



## < JENの漁業支援プログラム >

牡鹿半島の漁業従事者(約4000人)を対象とした生業回復のサポートと、地域の今後の発展を促進するプログラムを実施。

- 
1. 養殖準備のためのボランティア派遣
  2. 漁具の提供
  3. 漁網作成による収入の創出
  4. 発展のための戦略策定

## 養殖準備のためのボランティア派遣

養殖に必要な原盤(タネを付着させるための器具)づくりのボランティア派遣を、通年を通して行いました。2011年末までに、延べ4,000人以上のボランティアが参加しました。

種付けから収穫まで2年かかるうえに、道具や原盤が津波で全て流されてしまったため、例年以上の数がが必要です。放卵のシーズンに間に合わない、3年後の牡蠣が獲れないため、急ピッチで作業が進みます。

### 牡蠣の原盤づくり



(左)ホタテの殻を数珠つなぎにして作ります。

(右)ホタテの貝に穴をあけ、針金を通して何枚も重ね合わせ、出来たものを海に入れて幼生を付着させます。養殖業者1世帯につき1,000本の原盤が必要です。





養殖は、種付け後、すぐには収入に結びつきません。ホタテ養殖には1年、ホヤ養殖には3年かかります。一方、漁船漁業は、即日収入へと繋がるため、初期の漁業再建手段として有効です。ジェンでは、養殖で自立した生活を送れるようになるまでの収入源をサポートするプロジェクトを行いました。

## 漁網作成による収入の創出

漁を行うには、各浜1,000枚以上の魚網が必要ですが、震災後、完成品の魚網は全国的に品薄の状態が続いていました。ジェンでは、浜の方々に網の材料を提供し、編みあがった網を漁師さんに使ってもらうという収入創出事業を始めました。

完成した魚網はいったんジェンが買い取り、その後、各漁協支部を通じて漁師さんたちに公平に分配されます。それによって、魚網を編む人と、それを使って漁を行う人、それぞれに収入をもたらすことが出来るのです。



ベテラン漁師さんが若い人たちに編み方を教えます。技術の伝承、世代間の交流などの効果も生まれます。ボランティアも参加しました。

## 漁具の提供

当面の生計手段となる船漁漁業を営むために必要な道具を、地域の漁業協同組合に配布しました。





# イノベーション・ワークショップ



## 発展のための戦略策定

漁業再開のためのサポートと並行し、今後も地域が存続し、発展していくために、コミュニティ単位での復興計画や将来のビジョンを形成するために住民参加を促すためのワークショップを実施しました。

ファシリテーションの専門家によるワークショップでは、浜の1年後、5年後の姿を住民同士で思い描き、そのために何が必要かを話し合います。そこに住む人びとが主体となって、震災以前よりも元気のある地域の未来を思い描きます。





# コミュニティ再建支援



## 地域のつながりを取りもどす

多くの人々が去ってしまった地域や見知らぬ人同士が集まって住む仮設住宅では、近隣とのコミュニケーションが希薄になり、地域の絆が失われていました。

災害の被害から立ち上がるためには、地域全体が活力を取り戻す必要があります。住民自身がもう一度「この地域を良くしよう」という気持ちになり、地域の課題をひとつひとつ解決することが、地域の復興の力になります。地域に住む方々がお互いに協力し、支え合い、復興へ向かう前向きな思いと自信を取り戻すことが不可欠です。

### < JENのコミュニティ支援プログラム >

対象:

- 集会施設を失った地域コミュニティ(3か所・約2,000世帯)
- 131カ所の仮設住宅団地(約7,000世帯)の住民

～ を通じて、地域の人びと自らが、新しい街を一から興していくための基盤づくりをサポートしました。

地域のつながりの再建(ワークショップ、イベント)  
引きこもり、孤独感、PTSDなどの軽減(心のケア)  
地域が抱える課題を解決するための自治会形成  
日々の生活や生計回復のサポート  
新しい街をつくるための将来ビジョン作成のサポート



(右)知らない人同士が住む仮設住宅では、住民のコミュニケーションが希薄なため、敷地内に設置してある集会所や談話室も、その多くが使われないまま長く放置されていました。



地域の集会所「なかやしきっさ」をオープン



# 地域のつながり再建と心のケア



## 仮設住宅で。

石巻市内に7,000戸以上ある仮設住宅は、131ヶ所に分けて建てられています。元の町内会がそのまま一緒に移動できるケースは稀で、住み慣れた土地や家族、親しい隣人と離ればなれで住んでいる人も少なくなく、新しい土地で地域の繋がりをいちから築いていく必要があります。また、そのような環境では孤立しがちで、支援への依存生みます。孤独死や依存を防ぐためにも、地域全体で支え合う環境が必要です。



クラフトワークショップ



夏休みの学習教室



お茶っこのみ



近隣とつながるきっかけ作りのための各種アクティビティを実施。



クラフトワークショップ

集会所の運営サポートを通して、人と人をつなぎ、やがてコミュニティが形成されていく過程をサポートします。



アートセラピー

## 被災したコミュニティで。

～地域の集会所「コミュニティ・カフェ」でのコミュニティ・サポート～

被災した地域に残って避難生活を送る住民が多いことも、今回の震災の特徴です。かろうじて住むことができる2階部分へ避難していたり、建築制限がかかっているために定住を決められず、親戚、知り合いの元へと避難場所を移す方もいます。

ジェンが活動する3地域では、住民数が震災前の1/4以下になり、近隣住民同士の絆が失われていました。被災された方々が、ともに支え合うための拠点として、震災でダメージを受けたり流されてしまった地域の集会所を修復&再建し、運営をサポートしました。



# コミュニティ形成サポート



仮設住宅では、コミュニケーションが希薄なことから、自治会形成の遅れが目立っています。

そのため、集会所や談話室での管理の問題やゴミ問題など、地域生活のルールが決まらない、近隣住民の顔が見えないので引きこもってしまう、小さな子どもを外で遊ばせることに不安があるなどの課題が多くあります。また、かつて自治会の運営委員であった方々のなかには、震災で亡くなってしまった方、依然避難生活を続けている方も少なくありません。そのため、地域を運営する主体や自治機能は失われたままでした。

ジェンでは、ワークショップや各種活動を通じ、自治会の機能を取り戻す過程をサポートしました。地域の現状を共有し、課題を見つけ、住民自らが共通の将来と復興ビジョンを描いていく道筋作りを行いました。



(左)防災訓練ワークショップ (右)仮設住宅の住民マップを作成

仮設住宅での活動には、当初はなかなか男性の参加者が集まりませんでした。そこで、男性が参加しやすい活動の内容として「防災訓練」を実施。男女問わずたくさんの皆さんが参加があり、防災訓練を通じた交流が生まれ、男性の地域への参加が促進されました。



自治会形成のためのワークショップ

黄金浜地区の集会所(コミュニティ・カフェ)で、自治会作りについての寄り合いを開催。ファシリテーションの専門家を招き、市内の仮設住宅集会所やコミュニティ・カフェ(3箇所)で複数回に渡り実施しました。



## 今後の事業方針



ボランティア受け入れ事業  
コミュニティ支援  
生業回復支援



新しい未来と  
よりよい復興へ